

青　　い　　鳥

〔平成28年5月号〕

幼稚園はたのしいね！

桜の花びらも散り掛かり、これからは八重の桜が美しい姿を見せてくれますし、また、一年の中でも一番過ごしやすい季節が巡って参りました。

ところが、4月14日に発生した「熊本地震」では、多くの命が失われ、未だに避難所や車での避難生活を余儀なくされている方が大勢いらっしゃいます。一日も早く普通の生活に戻れることを祈ってやみません。

さて、子どもたちも園生活に慣れてきて、徐々に落ち着きを取り戻してきたようです。そして給食・一日保育が始まりますと体力的にも疲れが出てきます。生活のリズムをつかむことができるようになるまで、お家ではゆっくり休ませてあげてください。

園生活の中でも新しい活動に触れることが次第に多くなってきます。どんなに小さな事でも自分で出来たことに対しては、誉めて伸ばしてあげてください。「できた」という自信が次へのやる気につながります。

いろいろと活動が広がって行く中で、お子様によっては興味・関心を示すところが異なります。その時期を見逃さないようにしてあげることが、私たち保育者や保護者の皆さんの仕事でもあると思っております。保護者の皆さんと連携をとりながら大切なお子さんの成長を見守って行きたいと考えておりますので、どのようなことでもご相談ください。

また、この時期になりますと、何かと理由を付けては登園を拒否するお子さんも出てきます。体の具合が悪くない限り休まず登園させるようにしてください。欠席する習慣は付けないようにして欲しいと思います。このことは学校に行ってから大切なことです。

特に5月は大型連休がありますので、一度付いた生活習慣をくずさないように連休中の生活には注意を払って頂きたいと思っております。

この基本的な生活習慣を一日でも早く身に付けさせるためには、どのような点に気をつけなければならないのでしょうか。そこで基本的な生活習慣を身に付けさせるためのポイントを紹介させていただきます。

① 教えるポイントは一つにする。

親としてあれもこれも教えたいことは山ほどあります。子ども側からすれば、あれはダメ！これもダメ！これはこうするの！教えたでしょ。ちゃんとやりなさい！では、頭の中が混乱してしまいます。ですから、教えるポイントを一つに絞り、これができたら次のポイントへ移るようにしてあげてください。そうすることによって、しっかりと身に付くようになります。

② 難しいところをはっきりと示し教える。

大人にとっては簡単なことでも子どもには難しいことが沢山あります。その難しいところを繰り返し、丁寧に教えることが大切です。

③ 時には言葉でなく動作で教える。

何度言ってもわからないと口うるさくなりますよね。でも口うるさく言われると注意力が散漫になり、理解力も半減してしまいます。時には動作だけに注意を集中させ、動きを通じて教える方が何倍も正確に伝えられます。

④ 教えながら教える。

これは、教えたことを訂正しながら教えていかなければならないということです。大人は自分がやって見せたように子どもが直ぐに実行できるようにと望みます。ところが、子どもは理想通りにはいきません。だからこそ「教え・学ぶ」ことを繰り返すことが大切なのです。そこで、気をつけていただきたいのが、教えたことを訂正しながら「教えると子どもはまたまた混乱してしまいますので、訂正という形では無く、教えながら教える。抽象的な表現ではありませんが、上手にリードしてあげてください。

⑤ 自分からやる自由を与える。

このことは、モンテッソーリ教育の最終目標で、子どもたちが自分で考え、自由に行い行動する。つまり、自分の行動を自分で考え、自発的に行動を展開して行けることを目標にしておりますので、ご家庭においてもその機会をできるだけ多く与えるようにしてあげてください。

園長 糸山 恭子